



組合員数109,282人  
支部数 943  
読者数 67,163人

(5日現在)

(連絡先) ☎03(5978)2751 FAX03(5978)2777  
E-mail/honbu@nenkinsha-u.org  
ホームページ/年金者組合と入力し検索して下さい。

# 年金者しんぶん

第385号 2022年1月15日(土)

(通巻第584号)

全日本年金者組合中央本部

〒170-0005東京都豊島区南大塚1-60-20天翔大塚駅前ビル  
発行人 杉澤 隆宣 月刊1部100円(組合費を含む)  
昭和57年6月30日第三種郵便物認可

## 貧困描き70歳の小説家デビュー

### ケースワーカーとして働いた体験もとに

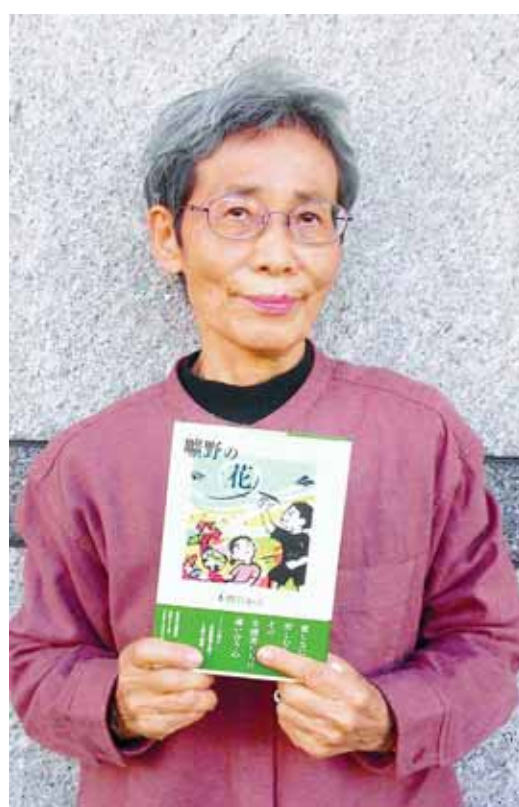
「残り少ない人生、小説を書きたい」と68歳で民主文学会(日本民主主義文学会)に入り、創作を学び始めた清水悦子さん(愛知・名古屋千種支部)。「木曾ひかる」のペンネームで書いた「月明かりの公園」が2015年に『民主文

### 変革の一助になれば

### 清水悦子さん

愛知・名古屋千種支部  
ペンネームは「木曾ひかる」

生活保護の現場は、元暴力団員、元受刑者、就労指導に怒り殴りかかる男性、施設の我が子を引き取った後に殺害した親などなど、辛い思いをすることも度々だったと清水さんは語ります。



自作の小説「曠野の花」単行本を手にする清水悦子さん

作りの「食生活改善教室」を実施し、子どもの状況把握にも努めました。2002年3月、首領椎痛で心ならずも退職するまで、清水さんは生活保護、障がい、児童「これこそ天職」と福祉関連の仕事に打ち込みまし

た。退職後もホームレスの緊急一時宿泊所で嘱託指導員を務めました。13年、清水さんは、残り少ない人生、小説を書きたいと民主文学会名古屋支部に入会。東京で開催の文学講座、創作専科を受講しました。15年、保護係の嘱託就労支援員を描いた「月明かりの公園」で『民主文学』新人賞を受賞しました。木曾義伸と作曲家大江光から名付けた小説家木曾ひかる70歳のデビューです。

心騒ぐシニア文学サロン

1月30日(日)午後2時~4時

清水悦子「曠野の花」がとらえた現代の貧困

清水悦子(文芸評論家)  
松田 繁郎(文芸評論家)  
作家も参加します。

日本民主主義文学会  
TEL 03-5940-4335 FAX 03-5940-4339  
E-mail info@nenkinshangaku.org  
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-29-9-202

「曠野の花」をテーマの文学サロン。作者も参加します。問い合わせ・申込みは民主文学会電話03-5940-6335又はメールで

①よく本を読む、書き続ける。②いろいろなことに興味や関心を持つ。③新聞や雑誌で気になるものは切り抜いて保存。④喫茶店では必ず、購読していない新聞

シニアライターを目指し、清水さん自身も日常行っていることをあげてもらいました。①よく本を読む、書き続ける。②いろいろなことに興味や関心を持つ。③新聞や雑誌で気になるものは切り抜いて保存。④喫茶店では必ず、購読していない新聞

### シニアライターをめざすあなたへ

を送付。⑤電車内や散歩で出会う人を観察して、どんな人物か想像して膨らませる。⑥散歩時に花や木を見て小説に取り入

る方は直接申し込んでください。シニアライターをめざすあなたへ

### お年玉読者プレゼント

著者、当選者のサイン入りの木曾ひかる作「曠野の花」を3人にプレゼントします。希望者はハガキに住所、氏名記入の上1月28日必着で中央本部「年金者しんぶん編集部」まで。

### 社会福祉一筋に

清水さんは4人娘の三女として名古屋生まれの名古屋市育ち。幼い頃から読書好きで、高校時代には文芸部に所属して小説を書きました。経済的に恵まれていなかった家庭なので自立自活を目指し、教師の金持ちの子のえこひいきに抗議する正義行動派。高校卒業後、名古屋市役所に勤務しながら愛知県立女子短大国文科(夜間のみ・2年半)に通学。「社会福祉主事」の資格

を得ました。しかし、女性性は男性の補助的な仕事ばかり。清水さんは自分から希望して、男性がしていた仕事を引き受け、現状維持を望む同僚の女性たちを説得しました。66年に結婚、母親となつた清水さんは労働組合婦人部で男女差別反対の運動を進め、保育運動、学童保育所作り、仕事とフル回転。

73年に本山革新市政が誕生。清水さんは79年に名古屋生活保護女性ケースワーカー第2号となり、89年名古屋市の保護係長となりました。中江市職労委員長とのつながりで年金者組合には57歳で夫とともに加入しました。

## 風雪

▼総選 拳の結果にガックリしている仲間、新年のエネルギーを送る。ノール文学賞を受賞したフォーク歌手ボブ・ディランが22歳の時に作った「時代は変わる」である。

▼「目を大きく見開いてほしい...そして直ぐに口を開いてはいけない、車輪はまだ回っていない、車輪はまだ回っていないんだ...今は敗者であっても、後に勝者になるかもしれない、時代は変わりつつあるんだ...」

▼「人新世の資本論」というベストセラーを出した35歳のマルクス。研究家斎藤幸平さんはテレビ出演も増え、脱成長を主張し、マルクスを再評価する。もっともらしいだけで無内容な専門家、コメントーターの対極で極論と想う人もいるだろう。

▼しかし、「リアルなつながりと地域に密着した共同体の再構築」の重要性も強調している。「3・5%の人が本気で立ち上がれば社会は大きく動く」との彼の論を励みに共に歩もう。今年もご愛読を。

今号は新年号12ページです

